【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成18年3月30日(2006.3.30)

【公開番号】特開2001-57110(P2001-57110A)
【公開日】平成13年2月27日(2001.2.27)
【出願番号】特願平11-231002
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｂ　5/14　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　7/02　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　9/00　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　15/04　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　5/18　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　3/08　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　3/22　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　101/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｂ　5/14　Ａ
Ｂ３２Ｂ　7/02　１０４
Ｂ３２Ｂ　9/00　Ａ
Ｂ３２Ｂ　15/04　Ｚ
Ｃ０８Ｊ　5/18　ＣＦＤ
Ｃ０８Ｋ　3/08
Ｃ０８Ｋ　3/22
Ｃ０８Ｌ　101/12

【手続補正書】
【提出日】平成18年2月10日(2006.2.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
本発明に係わる透明導電性フィルムの好ましい態様としては、金属薄膜層（Ｃ）が銀を９５重量％以上含む薄膜層であること、高屈折率透明薄膜層（Ｂ）が、金属酸化物または金属硫化物で形成された薄膜層であること、該金属酸化物が、酸化インジウム－錫、酸化インジウム、酸化錫の中から選ばれた少なくとも一つの化合物であることが挙げられる。また、透明導電性フィルムの好ましい特性として、表面抵抗率が０．５～４Ω／□、全光線透過率が５０％以上であることが挙げられる。本発明の透明導電性フィルムは、優れた高耐久性、高電磁波遮蔽性、及び高透明性を有し、プラズマディスプレイパネル（ＰＤＰ）、ブラウン管（ＣＲＴ）、液晶表示装置（ＬＣＤ）等のディスプレイから発生する電磁波を効率よく低減させることの出来る電磁波フィルターとして好適に用い得る。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
本発明に用いる透明導電層としては、高屈折率透明薄膜層（Ｂ）と金属薄膜層（Ｃ）と

からなることが好ましい。一般的に、透明導電性フィルムに用いられているＩＴＯや酸化亜鉛などの金属酸化物系透明導電層単独の場合、表面抵抗値を下げるためには透明導電層を厚くする必要が有り、その場合、全光線透過率が大幅に低下し好ましくない。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】

本発明で用いる高屈折率透明薄膜層（Ｂ）としては、特に材質が限定されるものではないが、好ましくは屈折率が１．６以上、より好ましくは１．８以上の材料が好ましい。このような高屈折率透明薄膜層を形成しうる具体的な材料としては、インジウム、チタン、ジルコニウム、ビスマス、錫、亜鉛、アンチモン、タンタル、セリウム、ネオジム、ランタン、トリウム、マグネシウム、ガリウム等の酸化物、これらの酸化物の混合物、複合酸化物や硫化亜鉛等が挙げられる。これら酸化物あるいは硫化物は、金属と酸素、硫黄との間の化学量論的な組成にずれがあっても、光学特性を大きく変えない範囲にあれば差し支えない。これらの材料の中で酸化インジウム、酸化インジウム－錫（ＩＴＯ）、及び酸化錫は、透明性が高く屈折率が大きいことに加えて、製膜速度が速く金属薄膜層との密着性が良好であることから好ましく用いることができる。